

ていること、地元の資本（労働力、資金）が小規模であることなどから急激な発展はないであろうが、一方では安上がりなレジャーである、素朴な味わいがある、ゆず栽培の一部導入により安定した収入を得ることが可能であるなどのことにより着実に発展していくと思われる。

日立市の工業化と都市化

山 口 優 子

日立市は茨城県北東部に位置し、人口 20 万人の、水戸に次ぐ県下第二の都市である。しかし、明治の中頃までのこの地方は、岩城街道に沿う宿場と農業・漁業集落から成る寒村にすぎなかった。ここに、どのような理由で工業化が開始され、地形的な制約にも拘わらず都市化が進行していったのだろうか。

本論文では、日立市の発展過程を工業化と都市化の関係から考察し、現在ある程度市街地が飽和状態に達した市にどのような問題が発生しているかを明らかにしていきたい。

日立市の近代鉱工業の発達は、日本鉱業（株）日立鉱山の成立と、これから分離独立した日立製作所とその系列企業、並びにこれらの下請企業の集積による。

このような大企業を中核とする工業生産機能の集積に伴って、市街化も自然成長的に進み、鉱工業発祥の地である宮田町・助川町から、南部の多賀町や更に南の久慈町方面に向けて市街地が展開した。特に多賀地区は、多賀工場設立をきっかけに工業集積が見られ、その隣接地に社宅等の住居地域が広がるなど、市街地が大きく拡大した。しかし日立市の行政区域が久慈川下流低地を南限としていること、久慈川を隔てて原子力発電所が存在していることから、南部方向への展開は昭和 45 年頃に一応落ち着き、今度は一転して北部の日高・豊浦町へと展開しつつある。これは、昭和 38 年以來の日立電線系工場の立地、その周辺に社宅・公営住宅・民間分譲団地の開発が行なわれたことになる。

このように、日立市の都市形成は、山が海に迫り南北に細長い平坦地を有するという地形的条件から、市街地は南北に帯状に形成されてきた。そして、まず工場が立地して生産活動を始めてからその周辺に社宅等の住居地域や商業業務地域が形成されるという歴史的発展過程を持つために、市街地の中心部に工場が集中し、鉄道駅周辺に工業地域または工業専用地域が存在するという形態になっている。またこれらの隣接地には関連中小企業の集積があり、住工混在地域が市街地の中心部に取り残されることになった。そのため、騒音・振動・悪臭・大気汚染等の生活環境面の悪化を招くことになったのである。

このように日立市は、工業都市の様々な機能が雑然と混在することになり、また市のおかれている地理的・地形的条件から細長い帯状の市街地の形成という特殊な形態を示し、同心円の都市構造を見ることはできない。そのため、人口 20 万という規模にしては貧弱な都心地域を持つことになった。

従って、今後の都市機能の整備を進めていく上で、土地利用上工業生産施設と住宅・商業業務地域の混在を整備し、住工混在地域に発生している環境問題を解決していくことが必要である。また人口 20 万規模の都市にふさわしい都心地域を発展させるために、市街地再開発事業を促進し、商業機能

の振興により地方都市の魅力の一つとして都心地域に盛り場性をいかにつけ加えていくかが課題と言えよう。

豪雪地域の地域性に関する地理学的考察

—新潟県小千谷市を中心として—

吉田章子

新潟県は全国でも有数の豪雪地域となっているが、その中でも魚沼地方はことに雪深いことで知られており、3～4mの積雪をみることもまれではない。したがって、この地域の住民の冬期の生活は“雪”によって大きく支配されていると言ってよいだろう。つい最近まで、積雪は雪国の交通と産業をマヒさせ、生活を凍結させてきた。日本で雪についての本格的な研究が始まってから、まだ40年少々しかたっておらず、さらに、雪国における冬期の生活マヒを積極的に改善する動きがおこったのはごく最近のことである。そこで、本論文では、雪に対する労力と生活の記録を記すことによって、少しでも豪雪地域の地域性というものを知る手がかりとなすことを目的とした。

研究方法としては、各種文献の他、現地でのフィールド調査および魚沼地方の3つの高校にお願いしたアンケート調査の結果を資料とした。

ひと口に豪雪地域といっても、都市もあれば農山村もあり、積雪の状態も様々で、雪による障害もまた一様ではない。小千谷市においても、市街地では機械力による道路の除雪がすすめられ、流雪溝や消雪パイプ等の消雪設備も整って、冬期でも車輛交通が可能となっている。一方、雪害対策の遅れている山間地域では、今なお道路を開くのは人力による道つけに頼り、様々の生活上の不便を強いられている所が多い。

アンケート調査によれば、住民は雪国を「土地に愛着はあるが住みづらい。」と考えているという結果がでたが、実際、雪がこい、雪掘り、道つけ等にかかる費用や労力は雪国の生活における大きな損失である。その他、産業や交通の面でも、雪は決してプラスの要素となっているとは言えない。

しかし、深い雪の中で冬をすごしてきた豪雪地域における長い歴史は、雪国独得の民俗をつくりあげてきたし、これからも雪が降り続くかぎり、雪は地域住民の冬期の生活の基盤となっていくであろう。

道路除雪、雪おろし、冬期の出稼ぎと、雪による生活の困難さはまだまだ山積みに残されている現在、豪雪地域の住民は、これら克服しなければならない多くの課題と積極的に取り組んでいかなければならないと感じる。

横須賀市における都市化の特徴

和田直子

(1) 目的

横須賀市は三浦半島の中央部を占める人口40万人の都市である。戦前は一貫して軍都としての道